

# 外 国 語

## 英 語（リーディング）

### 第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

#### 1 前 文

令和5年度共通テスト（以下「本テスト」という。）の「英語（リーディング）」の受験者は、本試験と追・再試験を合わせて466,896人で、受験者全体の約98.5%に当たる。

本テストの問題作成方針では、平成21年告示の学習指導要領で、外国語の語彙や表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにすることを目標としていることを踏まえて、4技能5領域のうち「読むこと」の中でこれらの知識が活用できるかを評価するとともに、様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問うことをねらいとしている。

これらのことを踏まえ、本テストの問題について、報告書（本試験）14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

また、評価・分析するに当たり、以下の7つの資料を主に参考とした。

- (1) 高等学校学習指導要領解説（平成21年告示）外国語編・英語編
- (2) 高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）外国語編・英語編
- (3) 令和5年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針
- (4) 「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「英語表現Ⅰ」の検定教科書
- (5) 令和4年度大学入学共通テスト「英語（リーディング）」（本試験）
- (6) 令和4年度大学入学共通テスト問題評価・分析委員会報告書（本試験）
- (7) 令和5年度大学入学共通テスト「英語（リーディング）」（本試験）

#### 2 内 容・範 囲

本テストは、受験者が高等学校での外国語の授業（「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「英語表現Ⅰ」等）で学ぶ内容・範囲を網羅しており、高等学校段階での「読むこと」の領域の学習成果を測るものとしておおむね適切である。日常的な話題と社会的な話題及び科学的な話題が幅広く取り上げられている。場面や状況も受験者が日常生活や社会生活で経験しそうなものに設定されていて、適切である。学習指導要領で求められる、「主体的・対話的で深い学び」を経験してきた受験者が、高等学校段階で学習した語彙や文法の正しい知識を基に、コミュニケーションの目的に応じて英文を読み、思考力・判断力・表現力等を発揮しながら概要や要点を捉えたり情報を活用したりする内容となっている。

第1問A 設問文中のキーワードを手掛かりに問題文をスキミングして、機器を正しく使うための指示や手順を読み取る問題である。

第1問B 日程や場所などの条件を素早く検討して比較し、要点の理解を問う問題である。

第2問A 書き手と書き手以外の意見を区別した読み取りや、書き手の行動の意図を読み取る力を測る問題である。財布という具体物からキャッシュレスという概念へと発展する可能性を感じる問題文だけでなく、問1の「どのような質問をしたと思うか」という問いや、問5の「さらに知

りたいこと」を尋ねる問いは、自ら問いを発し探究する学習者を育てるという高等学校教育の方向性にも合致している。

第2問B 書き手とその友人による別々の体験を、書き手の立場で再構成した内容である。問3において、設問には「opinionを問う」とは明示していないものの、問題文全体から読み取れる書き手のopinionが問われており、問4と合わせて、事実と意見を区別した整理が必要である。2つの見方を併記した書き手の意図や心情を問うなど、より全体的な読み取りに関する設問もあるとおおいだろう。

第3問A 書き手の体験と知識に基づく説明文を読み、必要な情報をスキミングする問題である。問1において、問題文中に直接書かれていないことを読み取り、解答を選ぶことが求められるなど、部分的に細かい情報の読み取りが求められている。

第3問B モデルとなる人物の前向きな変化に感銘を受けた書き手の体験を題材としている。出来事や、書き手の行動や心情の変化が起こった順番を意識しながら、概要を適切に読み取る力を測る問題である。

第4問 複数の種類の野菜の栽培について相談する内容のメールを基に、合意形成を図ることを目的として、返信の形で情報の整理をしている。菜園の準備という共通のゴールを持ち、必要な行動を検討する過程を扱っており、具体的なコミュニケーションの発展性を感じる良問である。

第5問 発表するという目的のために物語を読んだ読み手の立場で、紹介に備えたメモを完成させる問題である。物語中の登場人物と主人公との関係や出来事の順番などを正確に読み取るだけでなく、読み手である発表者の目的に合致した、物語全体のメッセージを読み取ることも求められている。

第6問A 説明文から必要な情報を読み取る問題である。問題文で言及されている複数の実験や施設にはそれぞれ目的があり、精査しながらの読み取りが必要である。問3及び問4は問う内容に重なりがあり、適切な設問であったかやや疑問が残る。

第6問B 科学的な基礎知識を前提とした説明文を読み、重要な情報を研究ポスターにまとめ直す過程において、細部の正確な読み取りと、全体的な主張の読み取りが求められている。

### 3 分量・程度

問題作成方針に示された、「様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問うことをねらいとする」試験となるよう、全体的に「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」の検定教科書内で用いられる英文に準じた分量の問題文を扱っている。英文自体は、高等学校段階で学習した語彙や文法の正しい知識があれば読みやすい。難易度については、限られた時間内で詳細な読み取りが求められ、やや難しい設問も含まれるが、全体としては、幅広い受験者に対応すべく多様な難易度の問題がバランス良く配置されている。

第1問A 約180語で2つの設問。機器の使用法の説明を適切に読み取る問題であるが、問題文の難易度は標準的であり、設問数とのバランスは適切である。ただし、interiorsやfeedbackなど、本文から選択肢へのパラフレーズを正しく理解する必要がある。

第1問B 約240語で3つの設問。表形式で対照されている情報を検索し把握する問題である。問題文の難易度は標準的で、設問数とのバランスは適切である。

第2問A 約280語で5つの設問。問題文の難易度は平易で、設問数とのバランスは適切である。問3での選択肢のパラフレーズがやや難しく感じられるが、おおむね適切である。

第2問B 約300語で5つの設問。問題文の難易度は平易で、設問数とのバランスは適切である。問題文は留学先について2つの見方を併記しているが、パラグラフごとに整理されているので、相

違点を読み取るのは平易である。

第3問A 約250語で2つの設問。問題文の難易度は標準的であるが、量は、設問の解答根拠が文章の後段に偏っていることを考えると、設問に対してはやや多いと言える。vanishなど、本文から選択肢へのパラフレーズを正しく理解する必要がある。

第3問B 約300語に3つの設問。問題文の難易度は標準的で、設問数とのバランスは適切である。問1では、一定期間続く行動を表す選択肢と瞬間的な出来事を表す選択肢が混在しており、受験者はやや戸惑ったかもしれない。設問は文章の局所的な読み取りと全体的な読み取りをバランス良く求めている。

第4問 約580語の問題文で5つの設問。2つの文章と表を組み合わせで解釈し情報を整理することが求められるので、正確な読み取りが必要であるが、問題文の難易度はやや平易で、文章の流れに沿って理解すれば適切に読み取ることができる。総合的には標準的な難易度の出題である。問1は情報を整理した上で数で答える点がやや難しく、より自然な問い方が望まれる。

第5問 約650語で5つの設問。問題文の難易度は標準的で、設問数とのバランスは適切である。問2は問題文の正確な読み取りを求めるもので、適切な出題であるが、ダミーの選択肢も含まれ、やや難しい。問5も問題文全体の理解を求めるもので、適切な出題であるが、look under the surfaceという比喩を文脈に即して適切に解釈する必要がある点で、やや難しい。

第6問A 約680語で4つの設問。問題文は、語句の面でやや難しい。設問の数がやや多く、問題文の検討に時間を要する。問2では、**40**、**41**の空所の直前にあるcanがそれぞれ異なる意味で使われており、正しく理解する必要がある。

第6問B 約670語で5つの設問。問題文は、科学技術に関する題材であることから語句の面で難しい。また設問も実験操作の手順やgrapheneの構造と性質などについての正確な読み取りを求めるもので難しい。問4及び問5は、読み取ったことを基に推論を求めており、難しいが工夫のある出題であった。

#### 4 表現・形式

学習指導要領に示されている外国語科の目標を踏まえて、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況が設定されており、高等学校での学習の過程を意識した適切な場面設定がなされている。また、イギリス英語の表記を含めるなど、様々な形式のテキストから出題されており、バラエティに富んだ出題形式になっている。文章表現は、学習指導要領に基づき、それぞれの設定に応じた適切なものとなっている。また、図表や挿絵は、本文や資料の中で効果的に使用され、その量も適切である。

第1問A 城内ツアーで、音声ガイド機器の使用説明書を見ているという場面設定である。観光地によくある場面であり、説明書内の表現は、選択肢ではなじみのある表現に言い換えられる工夫がなされている。説明書の構成は、使用方法を箇条書きするなど実際のものに近くなると良い。

第1問B 自分の町で実施予定の国際短編映画フェスティバルのチラシを見ているという場面設定である。フェスティバルに参加したいという目的が明確で、読む必然性が生まれている。また、実際のチラシに即したレイアウトや、映画が製作された国の多様性といった工夫が見られる。

第2問A 新聞部員として、アメリカ人交換留学生からもらった次号のテーマ案を読んでいるという場面設定である。具体的な状況が設定され、友人からのコメントを盛り込んだメッセージとなっているが、より自然な状況設定やメッセージの内容になると良い。

第2問B 留学に興味があり、その関連記事を読んでいるという場面設定である。記事は、ある日本人によるイギリス留学体験記となっており、よくある留学生の心情が表現されている。theatres

などのイギリス英語が使用され、状況設定に適した表記となっている。

第3問A イギリス人交換留学生によって書かれた鯉についての雑誌記事を読んでいるという場面設定である。高校生である留学生が雑誌に投稿するという興味深い状況設定がなされている。

また、本文中に効果的に絵が挿入されており、内容を理解する一助となっている。

第3問B 英語スピーチコンテストに向けて、あるエッセイを読んでいるという場面設定である。読んで学んだことが設問として適切に位置付けられている。また、practiseなど書き手がイギリス人であることが表記に反映されている。

第4問 二人の友人と初めて借りた農園で野菜をどう栽培するかについて、メールで考えを出し合い、最後に自分がまとめるという場面設定である。協働的な活動が想定され、実際によく活用するメールという手段で、二人の考えを整理し、図表などを用いて1つにまとめるという学習の過程が反映された問題となっており、良問である。

第5問 英語の授業で好きな物語について発表するために、その物語を読みながらワークシートにまとめているという場面設定である。実際に授業でよく行う活動が取り上げられており、ワークシートの構成は、発表形式に合うまとめ方として非常に参考となる。

第6問A 英語部でクイズを作ろうと、水生動物についての記事を読んでいるという場面設定である。要約メモで書き手の意図や要点などをまとめ、それを活用してクイズを作るなど、実際の言語活動の過程を意識した場面設定となっている点は、参考となる。

第6問B 科学的発見をテーマとした校内プレゼンテーションに向けて、身近な鉛筆の芯から派生した研究記事について発表するためのポスターの下書きを作っている場面設定である。高等学校で実際に行う探究活動を想起させる出題となっていて良い。ポスターの下書きの作り方は参考となるが、大学での学びにつながる探究活動のモデルを提案するものとなることを期待する。

## 5 ま と め（総括的な評価）

全体として、問題作成方針に則して、グローバル社会で活躍する人材の育成を目指した英語教育改革の方向性を反映しており、外国語の語彙や表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて活用できるかを評価するテストとして適切であったと言える。様々なテキストから概要や要点を把握したり、必要な情報を読み取ったりする問題に加え、事実と意見を整理しながら読む問題、課題の解決策を考える問題、複数の情報からそれぞれの要点や書き手の主張等を読み取り比較する問題、情報を整理してまとめたり書かれたことを基に推論したりする問題など、思考力・判断力・表現力等を測る問題となるよう工夫がなされているとともに、幅広い受験者層に対して識別力のあるテストとなっている。

題材としては、観光や映画フェスティバル、留学といった受験者にとって身近なものから、水生動物の生態や科学技術といったアカデミックなものまで幅広い話題が取り上げられ、使用説明書やチラシ、記事、エッセイ、メール、物語、関連資料など「本物らしさ」を意識した素材が扱われている。また、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）におけるA1からB1レベル相当で問題が作成されており、場面設定に応じてイギリス英語の表記が使用されるなど、教科の本質に照らし、必然性のある形での出題がなされている。

各大問においては、実際のコミュニケーションを想定した具体的な目的や場面、状況などが設定され、それらの場面や状況において目的を達成するためにどのように思考し、判断して読み進めていけば良いかが設問として表されており、日々の授業づくりや言語活動を行う際の参考となる。また、高等学校における教科横断的な学びや課題探究型学習が反映された場面設定もあり、本試験と同様に、高等学校での学びに配慮され、大学入学者選抜の資料とするための工夫がなされたものと

評価できる。

今年度は、平成30年告示の学習指導要領（以下「新学習指導要領」という。）が年次進行で実施された初年度であり、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進めた1年であった。新学習指導要領の中で求められる「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』」は、目的に応じて情報を精査するだけでなく、4技能5領域を統合した言語活動を通して、精査した情報を基に自分の考えを形成し、話すことや書くことで表現したり、目的や場面、状況等に応じて互いの考えを適切に伝え合い、多様な考えを理解したり、合意形成したりする過程で育成される。そういった意味で、共通テストが、概要・要点の把握や必要な情報の読み取りに留まることなく、その先にある、書き手の意図を深く捉えたり、自分なりの意見や主張を相手に応じて適切に伝えたりする力も評価するものになることを期待する。そして、他者を尊重し、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら深く思考・判断し、表現する言語活動を積み上げた学びの成果を更に測るものとなることを願う。

出題内容				設問数		配点		
問題番号	中間	解答番号	出題内容			1問当たりの配点	配点	
第1問	A	1-2	情報の読み取り	2	5	2	4	10
	B	3-5	情報の読み取り	3		2	6	
第2問	A	6-10	情報の整理	5	10	2	10	20
	B	11-15	要点の把握	5		2	10	
第3問	A	16-17	要点の把握	2	5	3	6	15
	B	18-21	時系列での内容把握	1		3*	3*	
		22-23	要点の把握	2		3	6	
第4問		24-25	情報の読み取り	2	5	3	6	16
		26-27	条件に基づく情報の読み取り	1		2+2	4	
		28	条件に基づく情報の読み取り	1		3	3	
		29	正確な内容理解	1		3	3	
第5問		30	人物特性の把握	1	5	3	3	15
		31-34	展開の把握	1		3*	3*	
		35-36	原因の把握	1		3*	3*	
		37	意図の把握	1		3	3	
		38	要点の把握	1		3	3	
第6問	A	39	著者の主張の把握	1	4	3	3	24
		40-41	正確な内容理解	1		3*	3*	
		42	内容の論理的な理解	1		3	3	
		43	要点の把握	1		3	3	
	B	44	正確な内容理解	1	5	2	2	
		45	詳細な情報の読み取り	1		2	2	
		46-47	正確な内容理解	1		3*	3*	
		48	内容に基づく推論	1		2	2	
		49	内容に基づく推論	1		3	3	
合計				39		100		

\*は、全部正解の場合のみ点が与えられる。